

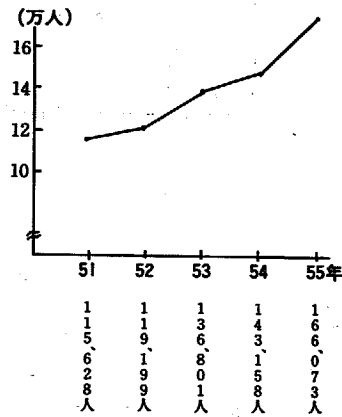
青少年の非行問題を考える

なぜ走る 何が走らせる

少年による非行が毎日のように報道されています。昭和五十五年に捕縛された刑法犯少年は全国で約十六万六千人を数え、戦後最高という憂うべき事態となりました。

本町もその例外ではありません。九月には、黒埼町青少年育成町民会議が発足しました。青少年の非行の源はどこにあるのでしょうか。彼ら自身？ 家庭？ 社会？ 学校？ 青少年問題についていっしょに考えてみませんか。

最近5年間の刑法犯少年(14歳以上20歳未満)の推移



社会問題ではなく家庭問題

新潟西警察

新潟西警察は、新潟市の関屋から赤塚の地区と本町(総人口約十三万人)を管轄していますが、本町をはじめこの地区の青少年の非行はいつたという状況なのでしょうか。

一、倍増した捕縛数

図1を見ればわかりますが、昭和五十四年度は百五十六名、昭和五十五年度は三百七十六名と捕縛数は二倍以上です。また、本年度(一―八月)は二百四十六名で、その六五パーセントは万引きです。この倍増の理由は、五十四年に大型スーパー店が開店したことがあげられます。少年を取りまく社会環境の変化です。

二、「うちの子に限って……」

補導された少年は、小・中学生の場合必ず学校に連絡され、それなりに対処されます。しかし、やはり一番重要なことは未然に防ぐことです。高橋課長も、「罪を犯した後が警察の役目です。しかし、それではいつまでも非行はなくなりません。やはり、日常生活が根本です。」と強調します。警察から連絡を受けた親の大半

は「まさか、うちの子に限って……」と言うそうです。子供を信頼することは親ならば当然ですが信頼が過信に変わってはいけません。

三、仏作って魂入れず

「親が子供をあまりにも知らなすぎる」と高橋課長。生活が昔に比べ豊かになり、また勉強しやすい環境ということで、最近はその子供に個室を与えているそうです。それはそれで良いのですが、子供部屋はまるで治外法権です。個室を作った後には必ずして足ります。子供を育てる責任です。

子供は、いつたその部屋で何をしているのか、ということを知らなければなりません。個室や物を買っても、それに親の「こころ」がこもっていないければ、子供の為にはならないのではないのでしょうか。

現在の社会は、物質が豊かになり、あらゆる情報に囲まれ、生活のテンポは驚くべき速さです。特に新潟市に隣接している本町では都会化の波が押し寄せてきています。今後とも本町の社会環境は大きく変化するでしょう。その変化に親も子供もついていけなくなりつつあるのではないのでしょうか。

しかし、何がどんなに変わっても変わらないものは「親子」です。子供は親の姿を見て育つといわれます。子供を正すには、まず親がしっかりと手本を示してほしいものです。

青少年育成町民会議

を結成

黒埼町

青少年の生活の場である地域を中心に、非行防止活動にあたるというのが、青少年育成町民会議です。昨年、黒下全市町村に、黒下の方針に基づいて、次々とこのような会議が結成されています。本町でも九月二十七日(日)、大野小で結成総会が開かれました。当日は、各小学校長、各PTA会長をはじめ、約百十名が出席しまし

た。浅妻町長あいさつの後、会議に入り、主旨、規約、役員、予算などについて審議が行われました。そして、従来町で組織されているPTA、各地区の子供会、ボーイスカウト、高校PTAなどの個々の活動の充実と相互の連絡を強化すること、年一回総会を開くこと、町教育委員会に事務局を置くこと年間予算を四十万円とするなどが決まりました。また、役員には会長に赤沼教正

氏(町保護司会長)、副会長に鈴木昭氏(体協会長)、松井健吾氏(山田小PTA会長)を選出しました。記念講演には、青少年育成新潟県民会議副会長の吉津勝栄氏が、「青少年育成と町民会議」と題し講演され、「もともと親が責任をもって子供の指導にあたって欲しい」と話されました。さらに、暴走族追放に関する決議を採択し、会議を閉会しました。

立て看板・ステッカーを製作

板井部落

板井部落を通ると、部落のあちこちに立て看板を見ることが出来ます。看板には「だすなスピード 家庭に笑顔」などと書かれています。

この立て看板が立ったのは九月三日(日)でした。板井の青少年育成推進委員が中心になり、自治会の協力を得て立てたものです。本町には四年前から青少年育成推進委員が誕生し、各部落、地区で活動しています。中でも、板井の推進委員は積極的に行動し、今回、この立て看板五枚とステッカー三百枚を製作しました。

ステッカーは各家の玄関に貼っており、家庭での注意を促したいとのことです。

板井一の推進委員の池乗伸さんは、「板井でも残念なんです。暴走族に入っている人がいるんですね。それで何とかしなければなりません。板井一の自治会長の丸山敬さんも、やっぱり、非行というのは身近な家庭、地域からなくしていかなければだと思えますね」と家庭、地域の役割を強調しています。

このような活動は、今のところ板井だけですが、池乗さんは「これがきっかけになって、他の部落でも行動を起してもらいたい」と言っています。非行防止は、家庭、地域から始まるのではないのでしょうか。

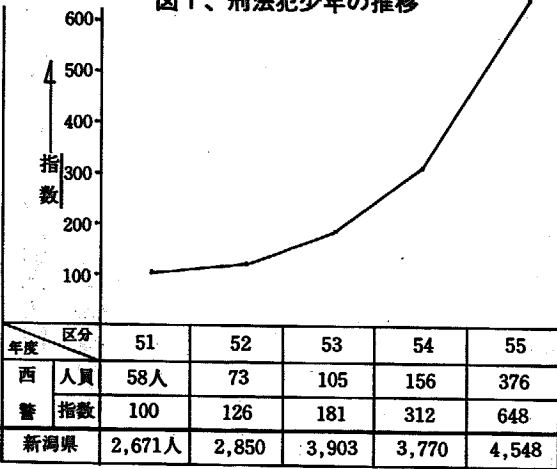
暴走族追放に関する決議

人命尊重の理念を基本に悲惨な交通事故を防止し、平和で明るい社会を築くことは町民のひとしく願うところであり、町民あげて懸命に努力をしているところである。しかしながら、最近青少年による集団暴走行為がひんぱんに発生し、社会的問題にまで発展していることは誠に遺憾であり、憂慮にたえないところである。よって、われわれは正しい交通秩序の確立と青少年の健全育成の見地から、町民の総力をあげて、家庭から職場から暴走族を追放し安全で明るい住みよい郷土づくりにまい進することを、ここに決議する。

昭和五十六年九月二十七日

黒埼町青少年育成町民会議

図1、刑法犯少年の推移



※西警は新潟県全体の中に含まれています。

▶青少年育成町民会議